環境学習みえ

2020年4月／三重県環境学習情報センター（四日市市桜町3684-11）年４回発行
表紙の人／左から園長：嘉成 頼子さん、保育士：岡 百里子さん、保育士：吉澤 礼子さん 2020 No.80

春

暮らす
～森の風ようちえん～

暮らす
～森の風ようちえん～

大地にしっかり両足をつけて立ち、手は愛の仕事のために働く。
そんな子どもたちを育てたい。
見えるところ全てを保育資源とし、地域と交流を深め、地域から学び、大人も子どもも共に育っていく場所。
「森の風ようちえん」でお話を伺いました。

いのちあふれる場所へ

今から20年ほど前、若者が人を殺めるという悲しい出来事が何件も起こりました。いじめ、自死、虐待。

「そのような事件は、その子、その人たちだけの問題ではなく、それを生み出してくる背景、社会の問題だと考えられます。と同時に命の感覚が薄れた社会を感じました。

自分もその社会の一人。そして教育に携わる者として責任を深く感じました。『命は大事だよ。』『そんなことしちゃだめだよ。』と言っても物事が繋がらないのです。命の重さや感覚は、命によってしか養えません。大人の知識の切り売りや小手先の技術では間に合わない時代になってきました。」と嘉成園長。

菰野町は、田や畑、少し行けば山の中にも入っていける、自然豊かなところ。そこに引っ越した園長は、豊かに穂を垂れている田んぼの道を通りながら、「私には、自分の食べるものがつくれない!!どうしよう。」と突然思ったのです。

「ご飯を炊くことはできても、お米は、作れない。」

衝撃を受けて、近所の方に稲作を教えてほしい、田んぼを貸してほしい、と願い出たところ、「20年放置してる田があるけれど、見ておいで。」と言って下さる方があり、見に行くと、そこは2m以上の笹が茂り、小木も生え、もはや田んぼではなく原野でした。身近な人たちに「田んぼやらない」と声を掛け、「やる、やる。」と集まった人たちからは、「先生、田んぼって言ったよね。こんなの笹林やん。」と。

地主さんも一緒に草刈り機や重機を使い、嘉成園長たちはカマで笹を刈り、笹の根を掘り起こし、大きな石をどけて、開墾していきました。

すると、そこに水を引いてきたとたん、どんどん、どんどん水生昆虫が湧き出てきました。ミズカマキリ、タイコウチ、ゲンゴロウの仲間がどんどん、どんどん。

この様子に園長は感動し、「ここだ。こういうところに子どもたちを委ねたい。本当のいのちのあふれるところに委ねよう。」と決めたと言います。

【お話を伺った人】

一般社団法人森の風
森の風ようちえん

園長 嘉成（かなり） 頼子（よりこ）さん

保育士 岡（おか） 百里子（ゆりこ）さん
（百里子先生）

保育士 吉澤（よしざわ） 礼子（れいこ）さん
（礼子先生）

サポートスタッフ 嘉成（かなり） 永慈（えいじ）さん
（永慈先生）

森の風ようちえん

「森の風ようちえん」は、菰野町千草に2007年に開園した認可外保育施設です。開園当初、小さくこぢんまりと、のんびりした保育を想定していました。園長の住まいの納屋を雨風しのげるように手直しし、田んぼのあぜ道を歩くイメージを持っていました。ところが思いがけず、借りた田んぼの大家さんから、倉庫になっていたスーパーマーケットを園舎に提供していただき、「先生、どうせやるならバリッとやろうよ。」と大家さんは言い、「大家の仕事だから」と改装まで施してくれたので、森のようちえんとしては珍しく立派な園舎をもって始めることができました。

地域の方々の後押しもあって、「森の風ようちえん」の今があります。

菰野町千草には、自然の恵みに添う暮らしや生活文化がかすかに残っています。「絆、キズナって言うけどさ、そんなん、おれら、昔からあったわさ。」と地元のおじいさんは言います。

少し前まで、日本中に互いに助け合いながら、丁寧に自然とともに生きる生活があったのです。森の風ようちえんは、そんな少し前の生活をなぞることを保育の軸にしたいと考えました。

礼子先生

「以前勤めていた幼稚園でも井戸を掘り、水を流し、木を植えて森をつくりましたが、本当の森や川は、人がつくったものとは全然違っていました。この地に住んでいた人が守ってきた森は本物で、スケールが全然違いました。

人工の川には、来る生きものが限られていて、本物の川に来るような魚やカニ、虫は来ない。本物の森や川は多様性が全く違いました。

本物の森に入るときは、生きものの気配やにおいがして、私たちがお邪魔しますという気持ちになります。また、季節を肌で感じながら、子どもたちが全身で体当たりしています。本当に子どもたちが喜んで遊びます。保育者は、過剰な制限をせずに済みますし、子どもも保育者もお互いに気持ちよく過ごすことができます。

子どもたちもそれを感じているからか、感覚や表情が豊かだと感じます。」

生まれ持った可能性

人は誰しも、人として良く生きよう、成長しようとする種のような力を持って生まれてきます。生まれ持った力があるから、教育が成り立つと嘉成園長は考えています。

その力を、どれだけ引き出せるかが、教育では問われることになります。

森の風ようちえんでは、いつも子どもたちが中心にいます。

年間のカリキュラムは作成しますが、子どもたちの姿を見ながら、どんどん変えていきます。その時々、子どもたちが向かい合っていることに合わせて変えていかなければなりません。子どもたちが、今何を求め、何に気づこうとしているのかに寄り添い、子どもに合わせて環境を選んでいくのが保育者の仕事です。

保育者自身が敏感になり、自分をどんどん変えていかなければならないことは言うまでもありません。

子どもの力

森の風ようちえん開園の頃は、実は、森や田んぼで子どもたちがどのように遊ぶのか、保育士が想像できていなかったところがありました。鍋でも持っていけば遊び道具にして遊ぶだろうと用意していましたが、そんなものがなくても、子どもたちは自由に遊びを作り出していきました。ただただ森の中を探検したり、木の枝を持ち、手あたり次第叩いてみたり、枝で絵をかいてみたり、どの子も同じような遊びから森遊びが始まります。

自然の中には何もないようでそこには全てがあります。何でも考え出せて、創り出せて、好奇心でいっぱいになり、夢中になれるところ。そんな好奇心のかたまりのような子どもに育ってほしい。何よりも、「遊び方まで決められたら、楽しくないじゃないですか。」と永慈先生は言います。

みんなで作ったお昼ご飯を食べるときも、当初3歳児には、熱いから、こぼすからと保育者がお味噌汁を盛り付けていましたが、それも、子どもたちには必要のないことだと直ぐに気づかされました。

いのちと向き合う

こんなことがありました。園児と一緒に山からの帰り道、猟師がシカを解体している現場に通り合わせました。大人たちは見せない方が良いのではと気遣いましたが、すでに子どもたちはしっかり目に焼き付けていました。しばらくして「ほら、さわってごらん。あたたかいよ。」と触らせてもらいました。

すると、園児から「わたし、トリさんのお肉もブタさんのお肉も食べたことある。」と言いだしました。

体験することで、子どもの中でいのちが繋がっていきました。いのちの感覚が子どもたちの中で目覚めていきました。

頭で考える前に、子どもたちは自然を受け入れていきます。体験からいろいろな物ごとのつながりを知り、繋がっていないと暮らしていけないことを学んでいきます。

火を焚き、道具を使い、暮らす

自分の
仕事や役割は
自分で考える

大きい枝はね、
こうやって
折るの!

上手に、マネして覚えていく。子どもたちは、大人のすることにあこがれを持っている。おやつひとつ配るのだって誇らしげで、自信につながる。何よりも楽しい。道具を使うのも同じ。少しずつ見て覚えていく。先生や仲間の仕草に目を凝らす。次は自分がやるのだから真剣に。

今は、ガスや電気、レンジなど便利な物を使って、簡単に調理ができてしまう。そういったものを使わない園児たちの食事作りには時間がかかる。とはいっても、少し前までは、それが普通の暮らしだった。ちゃんとした暮らしの根っこを子どもたちに持ってほしいと園長は願っている。

たくさんの人の手を借りて暮らす

冬まつり
餅つき

お餅をつくお米はどこから来た?
田んぼ
みんなは田んぼで
どんな仕事をしたか思い出して。
稲刈り　脱穀　稲干し
もみすり　精米
一番はじめは?
田植えの前は?
小さいポットに何を置いた?
お米の赤ちゃんを置いた
お米の赤ちゃんはどこからきた?
種だね。種はどこからきた?
去年のお米 稲刈りしたお米
前の年にみんなが育てたお米だね。
そう、種もまた田んぼから来たね。
不思議だね。おもしろいね。
人と同じだね。みんなは、お母さんから生まれて、お母さんはお母さんのおかあさんからうまれて・・みんなつながっているね。

自然の中でしか育たない子どものいのちのちからがある
仲間の中でしか育たない子どものいのちのちからがある
暮らしの中でしか育たない子どものいのちのちからがある

三重県野外体験保育普及啓発事業について

三重県では、子どもの豊かな育ちを基本とした子育てを推進しており、「野外を中心に、地域の自然を活用し体験活動を取り入れた保育や幼児教育」を「野外体験保育」と定義し、普及を進めています。

三重県で野外体験保育を実施するにあたり、独自で調査した「三重県野外体験保育有効性調査」によると、野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど多くの園児に「自分から進んで何でもやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの様子が見られると回答した割合が高いこともわかりました。

このことから、自己肯定感の向上を含め、子ども自らが考え、主体的に行動し、また他者とのかかわりの中で共に支え合う「生き抜いていく力」を育む野外体験保育が三重県内どこでも広く取り組まれる状況をめざしています。

野村 えみ子さん

三重県少子化対策課

なかまと暮らす お泊り保育（2泊3日）

1日目 電車に乗って動物園へ

名古屋駅、人、人、人
しぜんとなかまと手をつないだ
しぜんと一塊で動いた
しぜんと歩くスピードが速まった

2日目 朝明茶屋から根の平峠へ

日の出
朝日の輝き
今日も楽しい
一日に
なります
ように！

みんなで歩く
ゆっくりな子は前へ、強い子は後ろへ

根の平峠から
昨日行った
名古屋が
見える

愛知川（えちがわ）にて
小さなチャレンジャーたち
なんとかして
対岸へ行こうと
なんとかして

おしゃべり夢中で
乗らなくていい石に
乗って転ぶ
ちょっと泣きもした
みんながお互いにちゃんと
歩けるようにしようよ
しっかり足元を見ながら

夜は、
布団敷き
舞い上がって
いた布団

子どもたちだけでやり遂げた

3日目 雪だー

まだ薄暗い夜明け
上着も着ず、外へ

予定変更　砂防公園へ
雪遊びへGO!!

橋の上　新雪をみんなで確認
走り出すと思いきや、這いつくばって雪あつめ

「みんなでよいしょ！」
「みんなでよいしょ！」

子どもたち同士、
気持ちを合わせ
力を合わせることが
できた瞬間

お泊り保育の
アウトプット
3日間で
受けた刺激を
表現する

集中！
集中！

キセキに驚きと感謝

お泊り保育2日目は、山へ行きました。根の平峠まで歩き、雪があれば雪遊び、雪がなければ愛知川まで歩く予定で出発しました。

この日は、雪がなくて愛知川まで歩き、川遊びを楽しみました。ところが、なんと3日目に雪遊びができたのです。

「朝明（あさけ）茶屋でこんなに雪が降ったのは今年初めて。」と管理人。

これに巡り合えた子どもたち、すごい。

雪は朝方から昼にかけて降りました。

「夢やったんかな。」と百里子先生。

雪のない園に戻って振り返ると、雪景色が一瞬の夢のような出来事に感じられました。

「ようちえんにいたら見られなかったねー。」と園児。

この奇跡のような一瞬にはまった子どもたち。自然の恵みに感謝するばかりでした。

見えないもの

人は自然の摂理の中で生かされています。あらゆる生きもののつながりの上にしか人のくらしは成り立ちません。人だけが、自分の手に余るほどの、勝手をして良いはずがありません。

また、この大きな自然に畏敬の念を覚えることは、目に見えないものに気づいたり見抜いたりする力を育てます。あらゆるものを慮る大切な心を育てます。

今後、森の風ようちえんは、環境保全に繋がる「自然農を基盤としたしぜん保育」を推進し、SDGsのバックグランドを育てます。三重県環境学習情報センターでも、全ての子どもたちが、人として、豊かに暮らしていくことを願って、更なる取り組みを進めて参ります。

写真提供 森の風ようちえん

●森の風ようちえん 講演会●

「しぜんな子 育ては腹のそこからおもしろい」

開催日：2020年7月4日（土）

しぜん保育の魅力を森の風の実践事例を交えて多くの方々と学びたいです。講師の汐見稔幸先生は新幼稚園教育要領や保育指針の改訂・改定に関わってこられました。これからの幼児教育・保育の道しるべ的な存在です。小西貴士さんはしぜん保育をする傍ら、子ども達と自然の写真をとり続けてこられて自然と子ども達の魅力を伝えておられます。
二人のコラボでの講演会（トーク&スライドショー）は見逃せません。
自然・しぜん保育・子ども達・子育て・それを取り囲む全ての人達と共に子ども達の未来を考えます。

参加者（対象者）：
子ども達に関わる全ての人

詳細問い合わせ：森の風ようちえん
TEL/FAX 059-393-4782

汐見 稔幸さん

小西 貴士さん

トピックスみえ

三重県のこどもエコクラブを紹介します！

◇こどもエコクラブとは

こどもエコクラブは、3歳から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。一緒に活動する仲間（メンバー）と活動を支える大人（サポーター）がいれば、いつでも登録できます。

子どもたちの地域での自主的な環境活動を通して、環境を大切にする心と行動力を育むことや環境活動の輪を広げることを目的としています。

三重県では、65クラブ、メンバー10,977名サポーター366名の仲間が環境活動を頑張っています。

今回は、こどもエコクラブ全国事務局が開催する「全国エコ活コンクール」壁新聞部門への応募作品を紹介します。

四日市尾平イオン
チアーズクラブ
（四日市市）

四日市尾平イオン
チアーズクラブ
（四日市市）

なひがんばる隊
（津市）

三重中学校・高等学校
科学技術部
（松阪市）

三重中学校・高等学校
科学技術部
（松阪市）

明和イオン
チアーズクラブ
（明和町）

明和イオン
チアーズクラブ
（明和町）

4月から
三重県環境学習
情報センター 展示ホールに
作品のコピーを展示します。
子どもたちの力作を、
見に来てくださいね。

▲こどもエコクラブ
イメージキャラクター
「エコまる」

新しい仲間を
大募集中です!!

◇こどもエコクラブに登録すると

こどもエコクラブの証「メンバーズバッジ」が貰えます。（小学生未満の希望するメンバーには「ぼくの／わたしのエコカード」も貰えます）

活動内容は自由です。まずは「おもしろそう」と感じた身近なことから始めてみましょう。自治体や企業の環境イベントへの参加、地域のごみ拾いや自然観察会、家庭での省エネなど、どんどんチャレンジしてくださいね。

がんばった活動を報告すると専門の先生からアドバイスをもらえたり、全国のクラブからエールをもらえたりします。

◇登録先はこちら

●こどもエコクラブ三重県事務局（三重県環境学習情報センター） **http://www.eco-mie.com/kodomo/index.html**

●こどもエコクラブ全国事務局 **http://www.j-ecoclub.jp/**

環境イベントの情報を見たり、環境プログラムをダウンロードしたりすることができます。

センターNEWS

はみだしNEWS：メルマガ登録者をE-mailで募集中。氏名（ふりがな）、mailアドレスを明記し、info@eco-mie.comまで送信してください。

▼大人のあそべるたいむ

対象 16歳以上

会場 三重県環境学習情報センター
時間 13:30～15:00　材料費 300円
人数 毎回先着15名

申込方法 先着順で受付（受付は各講座の3カ月前から）

5/13（水） サクラ貝でつくるアートボード

美しい色で知られる
サクラガイを使った置き飾りです。
黒の画用紙に淡い色の
ちょうちょを飛ばしましょう。

7/1（水） 伊勢湾の貝がらでつくる夏の壁かざり

伊勢湾の海岸で採取した
貝がらでつくる涼しげな壁飾りです。
選んだ貝がらの名前を
つけて下さいね

▼あそべるたいむ

対象 どなたでも

「あそべるたいむ」が変わります!!!

毎日曜日の開館時間にいつでもご参加いただけます。
（9:00～最終受付16:30）

会場 三重県環境学習情報センター
人数 毎回先着15名　参加費 無料

4月～5月 石ころアート

この石は何に似ているかな!?
想像してみてね!
石に自由に絵を描こう!

6月～8月 貝がらストラップ

「サルボウガイ」の貝がらに色をぬってゴムを通し、ストラップを作ろう!貝がらはどうして穴があいてるの？貝の不思議を知ろう!

9月～10月 どんぐりクリップ

とっても大きなどんぐり「マテバシイ」を使ってかわいいクリップを作ろう♪

報告 ～こどもたちの学びが未来をつくる～

給食をおいしく食べよう！「ぜ～んぶ食べて、みんなにっこり☺」

実施校　桑名市立大山田東小学校
　　菰野町立菰野小学校

世界の重要課題である「食品ロス」。子どもたちに、食べ残しをするとごみになること、食べることができず栄養が十分に取れない子どもたちが世界にはたくさんいること、食べられる分を食べきることの大切さを伝えたいと、給食時間の校内放送で、「食品ロス」「もったいない」を伝えるプログラムを実施しました。
訪問した日の給食メニューをテーマに、感謝して食べきることの大切さを伝えました。

すっ、すごい！中学生たち！SDGs学習プログラム「服×SDGs」を実施しました。

実施校　三重大学教育学部附属中学校

三重大学教育学部附属中学校は、昨年度から、SDGs学習「STEP」をスタートしました。昨年度は目標13を主テーマとし、生徒が関心を持っている課題についての調査・研究を進めました。1月29日は、各研究課題の専門家を交えての授業実施日。当センターは、講師の紹介と授業1テーマを担当しました。「服×SDGs」をテーマに、服の原材料から着なくなるまでの工程における人と地球環境の関わりや、経済循環・エシカルについてのレクチャーを行い、服から「誰一人取り残さない世界」をどうつくるか、について学びあいました。

2020年度 環境学習ポイント制度

三重県環境学習情報センターの主催講座（大人向け）に参加すると1講座につき1ポイントがもらえます。
※連続講座の場合は1日につき1ポイント。

ポイント対象期間
2020年3月1日～2021年2月28日

申請締切
2021年3月15日

申請方法
10ポイント貯まったら、
その場で図書カードをお渡しします。
講座受付のセンタースタッフにお申し出ください。

プレゼントの引き換えは、おひとり様1回／年 限りです。

※ポイントの把握は自己管理でお願いしています。
※ご不明な点はお問い合わせください。

三重県環境学習情報センター

講座NEWS

詳細・申込方法については、ホームページ・チラシをご覧ください

PICK UP 環境講座はお近くでも開催できます

学校の先生の場合	地域活動団体の場合	自治体の場合
スキルアップなどにご利用ください。	メンバーの環境教育やスキルアップなどにご利用ください。	市町での環境活動を増やすキッカケ作りにご利用ください。

環境講座は出前講座としても実施できます。詳しくはお電話ください。

講座予定

環境講座

三重県民の森自然観察会

原則毎月第2土曜日 9時30分～12時
※10月は他の土曜に変更予定
4月11日、5月9日、6月13日、7月11日、8月8日、9月12日、10月未定、11月14日、12月12日、1月9日、2月13日、3月13日

会場	三重県民の森（三重郡菰野町）	締切	当日受付
内容	三重県民の森を散策し、その時期の昆虫、種子、キノコ、野鳥、クモなど、いろいろ見つけたものを観察します。 三重県民の森、自然観察指導員三重連絡会と共催		

環境学習指導者養成講座 スキルアップ講座

令和2年度 森林インストラクター資格試験 合格支援講座

5月17日（日）開講式
6月14日（日）森林②
7月12日（日）林業①
8月 9日（日）野外活動
9月 6日（日）試験対策
5月31日（日）森林①
6月28日（日）森林③
7月26日（日）林業②
8月23日（日）安全教育

会場	三重県環境学習情報センター（四日市市）	締切	4月28日（火）
内容	（一社）全国森林レクリエーション協会認定の「森林インストラクター」資格取得のための資格試験受験対策講座です。講座では「森林」「林業」「森林内の野外活動」「安全と教育」の4科目について要点を解説し、受験対策のポイントなどを指導します。 ※先着順		

環境講座

クモを観てみよう

5月31日（日）

会場	三重県民の森（三重郡菰野町）	締切	5月21日（木）
内容	室内でクモについての簡単な説明を聞いた後、外に出てクモを探して観察します。 三重県民の森と共催 ※先着順		

環境工房

たまねぎ染め

5月30日（土）

会場	三重県環境学習情報センター（四日市市）	締切	※先着順 定員に達し次第締め切ります。
内容	たまねぎの皮を使ってエコバッグを絞り染めにします。	材料費	500円

講座・イベント	開催場所	開催時期
夏のエコフェア ※4月18日（土）・19日（日）春のキッズエコフェアは中止になりました	三重県環境学習情報センター	8月1日（土）・2日（日）
エコぞうウォーク ～センター周辺の自然を探検しよう～	三重県環境学習情報センター	5月24日（日）・9月・11月
夏休みこども環境講座	三重県環境学習情報センター ほか	7月・8月
きのこの観察会 ～みて!ふれて!もっと知りたい「きのこ」のこと!!～	ともやま公園（志摩市）	9月13日（日）
自然観察指導員講習会	四日市市少年自然の家	10月10日（土）・11日（日）
スキルアップ講座 ～三重の森林が危ない! 立ち枯れる森の木々～	三重県総合博物館（予定）	10月18日（日）

令和2年度の環境基礎講座は、改訂された「三重県環境基本計画」に沿った講座内容を計画しています。

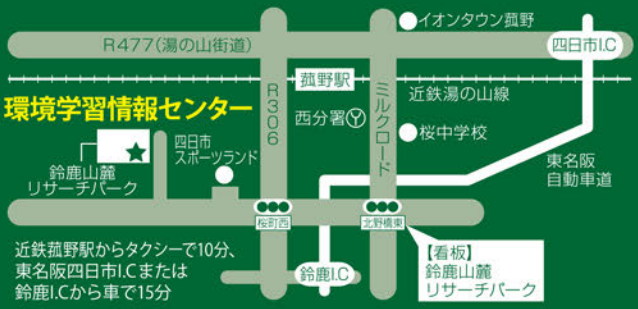
【第1回】**気候変動** 【開催日】7月18日（土） 【会場】四日市市文化会館（四日市市）
第１講 脱炭素社会の実現に向けて 三重県環境生活部地球温暖化対策課
第２講 気候変動による人類の危機 立花義裕氏（三重大学大学院生物資源学研究科教授）

第2回「生物多様性」、第3回「資源循環」、第4回「水環境」、第5回「エシカル」を8月～10月に予定しています。
日程・会場が決まりしだい、HPに掲載します。乞うご期待!

※「先着順」以外はすべて抽選となります。各講座の詳細につきましては、お問い合わせください。

三重県環境学習情報センター

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11

Tel	(059)329−2000
Fax	(059)329−2909
Mail	info@eco-mie.com
HP	http://www.eco-mie.com/
休館日	年末年始（12月29日～1月3日）
開館時間	午前9時～午後5時30分
入館料	無料

Facebook @eco_zou